

# 組織部速報

2021年3月3日  
No.30

## 2021 J R 総連春闘 第2回交渉（要求の根拠）を行う！

中央本部は本日、第2回交渉を行ない、要求の根拠について主張しました。

- 新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見えない中であっても、JR貨物グループ社員からの感染者は少ない人数で抑えられている。これは組合員一人ひとりがプライベートも含め徹底した感染防止対策を継続してきた結果である。輸送を止めることなく社会的使命を果たしてきた努力に対し、会社は目に見える形で応えるべきである。
- 世間では働き方改革が叫ばれているが、現業機関は働き方を変えることはできない。コロナ対策をしながら業務を遂行しているという点において、労働の価値は高まっている。
- 職場で働く組合員の原動力は「鉄道員として列車を止めない」という使命感であり、「事業計画に基づいて」という感覚は薄い。来年度事業計画は黒字を達成する計画を掲げているが、人件費は増えていない。これでは「労使一丸となって計画を達成しよう」というメッセージは伝わらないし、経営陣と職場の組合員との感覚がかけ離れていると言わざるを得ない。

貨物労組の主張に対して会社は、「コロナ禍で収入確保に奮闘する社員の頑張りには会社としても認識しているが、減収が拡大しており苦しい状況である。本日の要求の根拠を真摯に受け止め、次回会社としての考え方を示す。」と現時点の考え方を示しました。

職場集会や総対話行動を展開し「闘争ゾーン」に突入しよう！